



出会いと別れとジャマールとチキン南蛮

高校教頭 柏田 伸司

8月19日月曜日、朝。開始式に先立ち、新ALTのティモシー先生の着任式が行われました。カナダからやってきた25才の好青年です。「八幡坂の歩み」の原稿を依頼されていた私は、何を書くか迷っていましたが、ティモシー先生の初々しい挨拶を聞きながら、このタイトルを思いつき、早速原稿作成に取りかかりました。いま、「部屋とワイシャツと私」をロズさみながらパソコンに向かっていきます。

さてティムことティモシー先生はお盆前に日本にやって来ました。初めて職員室にやってきたときは、ほぼ日本語を理解していない様子でした。私に挨拶しにやってきて、私の訳分らない日本語をティムはニコニコとした表情で聞いているだけでした。また、ティムの英語による自己紹介を私は理解することができず、それでも私とティムは出会いの握手を交わしました。しかし、そのティムが今日（8月19日月曜日）、立派に(?)日本語で挨拶をしているのです。きっとこの2週間足らずの短い期間で日本語の練習をしてきたのでしょう。そんな、ティムの心意気に感謝です。そして、ティムの異国の地にやってきた冒険心と素晴らしい出会いにも感謝したいと思います。

ところで7月に佐世保北では別れがありました。佐世保北を心から愛し、佐世保北の生徒たちからこよなく愛されていたジャマールとの別れです。7月19日の八幡体育館での離任式、7月29日の玄関前でのジャマールとの最後の別れには感動しました。ジャマールの佐北への愛情と、みんなが別れを惜しむその姿に目頭が熱くなりました。別れとは本来、辛いものなのですが、そこには明るさがあり、若さがあり、エネルギーもありました。ジャマールの魅力は底抜けの明るさとひたむきさ、抜群の社交性等々、説明不要かもしれません。

私は2年前まで4年間進路主任をしていました。私が進路室で仕事をしていると、よくジャマールがメモ帳とボールペンを持って、進路室にやって来ました。私にいろいろと質問をするのです。例えば、

「柏田先生は授業の中で生徒に何を伝えたいと思っているか。」

「ALTとして、生徒に何を伝えてほしいか。」

「先生の理想とする授業とはどんな授業なのか。」

そういう内容です。ジャマールはただ明るいだけでなく、誰にも負けない勤勉さと、情熱と使命感を持ったALTだったのだと思います。だからこそ、佐北の生徒たちとあのような別れができたのではないのでしょうか。

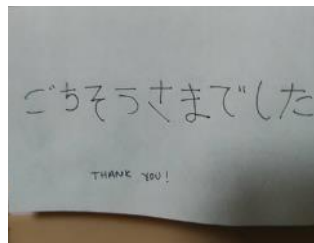
ある女子生徒が言っていました。

「ジャマールと言えばチキン南蛮、チキン南蛮と言えばジャマールだよね！」

私は口には出しませんが、その言葉に大きな違和感がありました。宮崎生まれ宮崎育ちの私にとって、あくまでも「チキン南蛮と言えばジャマールではなくて、チキン南蛮と言えば宮崎」なのです。お盆に帰省した私は高校時代の仲間（宮崎市在住の3人）とドライブをしました。絶景を誇る日南海岸を片手に、広島カーブが毎年必勝祈願に訪れる鶴戸神宮に立ち寄り、そのまま日南に向かい、飫肥城下町を散策しました。そして、日南市の油津漁港にかつお飯を食べさせてくれる食堂があるというので、そこで昼ご飯を食べることになりました。お盆前ということで食堂は大盛況です。案内をする店員さんに、メニューも見えない友人は歩きながら「とりあえずチキン南蛮を2人前！」と注文しました。そして、座席でメニューの中から友人はみな「あぶり鰹定食」を私はだし汁を掛けて食べる「かつお丼」をオーダーしました。そして、チキン南蛮を食べながらそれぞれが注文した食事が出てくるのを待ちました。周りを見てみると、他のテーブルにも海鮮料理とチキン南蛮が並んでいます。宮崎ではどこに行っても、チキン南蛮なのです。チキン南蛮発祥の店の一つと言われている「おぐら」という古くて小さいレストランが宮崎市内で一番の繁華街、橘通の山形屋の陰にひっそりとたたずんでいます。そこはいつも観光客の行列です。私は、宮崎大学を受験する生徒にいつもそこで晩ご飯を食べるように勧めています。でも、宮崎人は「おぐら」でチキン南蛮を食べません。「おぐら」のチキン南蛮がまずいからではありません。宮崎のどこで食べてもチキン南蛮はおいしいからです。だから、あえて「おぐら」で食べる必要はないのです。

ジャマールが佐北を去るその前に、宮崎のチキン南蛮を食べてもらいたくて、7月のある日曜日の午後から食材を買い込み、我が家で妻と二人、最高のチキン南蛮を作りました。特にタルタルソースは絶品です。妻から「邪魔!」とか「あっちに行っとって!」と言われながらも、私はジャマールのためにレモンを搾ったり、ゆで卵の殻を取ったりと3~5%は私がこのチキン南蛮を作ったと胸を張って言えます。そして、翌日、学校でジャマールにこのチキン南蛮をプレゼントしました。お昼と夕食で完食したそうです。その翌日、袋に入れて空になった容器をジャマールから受け取りました。家に帰ると、容器の中に手紙が入っていました。「ごちそうさまでした」そして小さく「THANK YOU!」と書かれていました。「ありがとう」と言ってもらえることは嬉しいことです。私の中で「チキン南蛮と言えばジャマール」となった瞬間です。

チキン南蛮を食べるたびにジャマールのことを思い出しそうです。



第43回全国高等学校総合文化祭（2019さが総文）

高校邦楽部顧問 伊藤 敦司

7月27日、28日に武雄市の武雄文化会館で行われた第43回全国高等学校総合文化祭（2019さが総文）日本音楽部門に出場しました。

全国から集まった学校の演奏はすばらしく、参加した生徒達も熱心に、他県の演奏を鑑賞していました。演奏後は他校の生徒とアドバイスや感想を述べ合ったり、日頃は体験できないような経験ができたと思います。今年、入賞は叶いませんでしたが、来年の（2020高知総文）に向けて、生徒にとって、とても有意義な全国大会になったのではないかと思います。



「写真はメッセージを伝えるもの」

高校写真部顧問 末松 賢嗣

7月28日から30日にかけて佐賀県で開催された第43回全国高等学校総合文化祭「2019さが総文」の写真部門に、写真部2年の松尾遥さんが参加しました。会場は嬉野市と非常に近いため、路線バスで1時間ほどの旅となりました。初日は全国から集まった300名の大会参加者がいくつかの班に分かれ、嬉野を散策しました。茶畑でできた嬉野茶をいただいたり、他校の写真部員と写真を交換したり、互いの部の雰囲気や部活動の様子について語り合いました。2日目の撮影会は、有田、吉野ヶ里遺跡、祐徳稲荷神社の3方面に分かれて行われました。松尾さんは有田町での撮影に参加しました。当日の天候は、急などしゃぶりの雨にみまわれたり晴れたりの繰り返りで、非常に蒸し暑かったのですが、雨宿りをしながらゆっくりと撮影することができました。その際、松尾さんは「他校の方が雨宿りの短い間にも良い写真が撮れないかと試行錯誤しているのを見て、私も見習うべきだと思いました。」と述べています。この大会では全国から集まった300点のうち上位30点が入賞となりますが、松尾さんの作品はその中の奨励賞を受賞しました。長崎県では実に6年ぶりの快挙です。そのため、最終日の講評会では、審査員の写真家の方から作品についてのコメントを聞かせていただいたり、本人も写真を撮った際、どこを工夫したかについてステージで発表しました。松尾さんはこの大会を終えて「これまでの私にとって、写真は『記録するもの』だったのですが、今は『メッセージを伝えるもの』へと考えが変わりました。この大会で得たものを今後の作品づくりにつなげていきたいです。」と語っています。来年の全国大会写真部門は高知県四万十市で行われます。



高校科学部顧問 福田 勝樹

7月27日から29日に佐賀大学で行われた第43回全国高等学校総合文化祭自然科学部門の口頭発表の部に出場してきました。やはりどの研究を見てもレベルの高いものでした。本校の生徒も「色素増感太陽電池」の研究成果を、精一杯の力を出しプレゼンをしましたが、残念ながら入賞することはできず、全国レベルの高さを痛感することとなりました。しかしながら、来年度にどう生かしたら良いかをつかむ機会になりました。



全国高等学校総合体育大会（南部九州総体2019）

高校空手道部顧問 佐々木 隼

令和元年8月8日から11日まで、沖縄県名護市の21世紀の森体育館で令和元年度全国高等学校総合体育大会空手道競技大会 第46回全国高等学校空手道選手権大会が開催されました。佐世保北高校空手道部は本大会で15年連続出場を果たし、表彰状を頂きました。今年度は、女子団体組手を筆頭に、男子個人形、女子個人形の部門に出場しました。結果は、個人戦は全種目第1ラウンド敗退という厳しい結果になりました。団体戦では、初戦で一昨年優勝した帝京高校（東京）との対戦でした。前半リードする場面もありましたが、0-5で敗退し、全国との差を身をもって感じる結果となりました。今回経験したことを糧に、「全国制覇」目指してこれからの練習に励んでいきたいと思えます。様々な面で応援してくださった本校OB、保護者、生徒、職員の皆様、本当にありがとうございました。

長崎県中学校総合体育大会・九州中学校体育大会

中学テニス部顧問 吉本 大樹 早田 優子

7月27、28日に長崎市総合運動公園かきどまり庭球場で、長崎県中学校総合体育大会テニス競技が行われました。本校からは、団体男女と、個人女子ダブルスで江崎彩実・大藤朋佳ペアが出場しました。

団体戦では、男子が1回戦で長崎東と対戦しました。ダブルス2試合とシングルス3試合での対戦で、ダブルスが2勝、シングルス3敗で、惜敗でした。女子が1回戦で長崎日大と対戦し3勝2敗で勝利、2回戦で長崎東と対戦し1勝4敗で敗退し、県3位という結果を得ました。

個人戦では、1回戦で大村と対戦し勝利、2回戦で長大付属と対戦し敗退で、県3位で九州大会の切符を獲得しました。九州大会は8月5日から長崎で行われ、初戦敗退でしたが健闘しました。

長崎市まで応援に来てくださった保護者の皆様、中学3年生の仲間達、どうもありがとうございました。

中学空手道部顧問 大石 絵里

7月28日に長崎県立武道館で、長崎県中学校総合体育大会空手道競技が行われました。本校からは、男子団体形と、男子個人形で3年橋口颯太郎君・3年藤永龍人君が出場しました。

団体形競技では、予選を2位で通過し優勝目指して決勝に臨み、結果は惜しくも2位でしたが、九州大会出場を決めることができました。団体5人中4人が3年生で、大会前に負傷者が出るなど全員そろって練習することが困難な中、お互いにアドバイスをし合い、最後まで挑戦者の気持ちを忘れずに取り組んだ結果だと思えます。個人形では、2人とも決勝に進み、4位までが九州大会出場という中、3位藤永君・5位橋口君という結果でした。

団体形で優勝することや、2人一緒に九州大会に行くという目標を達成できなかったのは残念でした。8月10日、宮崎県で開催された九州大会では、出場した競技で初戦敗退でしたが、全てを出し切った頑張りを見せました。

いつも温かく見守って応援してくださる保護者の皆様、毎日共に汗を流し練習した部活動の仲間や高校生の先輩方、ありがとうございました。

中学男子バドミントン部顧問 沢目 孝一郎

7月29日に長崎県立総合体育館で、長崎県中学校総合体育大会バドミントン競技が行われました。本校からは、佐世保市中学校体育大会で3位に入賞した、3年生の太田勇希君と徳田琢士君のペアがダブルス部門に出場しました。

トーナメント第1試合は波佐見中学校との対戦でした。渋滞で会場到着が大幅に遅れたため、急いでウォーミングアップをしての試合でしたが、2-0で勝利しました。2回戦は第2シードの奈留中学校と対戦しました。2人は小川隆裕コーチのアドバイスを受けながら善戦しましたが0-2で敗れ、相手ペアはその後準優勝しました。応援に来てくださった保護者の皆様、中学3年生の仲間達、どうもありがとうございました。

中学陸上競技顧問 坂本 直子

7月27日（土）、28日（日）に諫早市トランスコスモスタジアム長崎で長崎県中学校総合体育大会陸上競技が開催されました。合同練習会や2日間をともに過ごす中で「チーム佐世保」選手団としての自覚や絆が芽生え、多くのことを学ぶことができました。1日目は、共通女子100mHの3年原口葉希さんが15秒62で第5位、共通男子200mの2年吉村優輝君が23秒38で第6位と、二人とも自己ベストの好成績を修めることができました。2日目には、同じく吉村優輝君が2年男子100mで11秒68の走りを見せて第3位に入賞！惜しくも九州大会進出こそ逃したものの、暑い日差しや照り返し、強風にも負けず走りぬきました。選手たちを支え励ましてくださった皆様、ありがとうございました。

中学2年生強化学習会

中学進路主任 吉本 大樹

7月30日（火）から4日間、中学2年生は強化学習会を実施しました。3階講義室で全員一斉に自学を行い、慣れない長時間の学習に悪戦苦闘する姿や、日を追うごとに集中力が増していく姿を見ることができました。各教科で選択制講座を開設し、得意科目を深めようとする生徒、苦手を克服しようとする生徒など、それぞれが目的を持って取り組むことができました。質問教室にも多くの生徒が参加しました。今回は、高校1、2年生の希望者が質問の対応をしてくれて、中学生と一緒に悩みながらも誠心誠意理解させようと頑張ってくれました。中学生も普段ゆっくりと関わることの少ない高校生からの指導に、内容の理解だけでなく、非常に楽しい有意義な時間になったという声を多く聞くことが出来ました。この4日間を通して、学年の団結力や、学習に対する姿勢を向上させることが出来ました。



高校学習合宿

高校1学年主任 米谷 朝子

夏休みに入っすぐ、7月22日から3泊4日の学習合宿を実施しました。学習合宿の目標は「74回生全体で自学力と生活力を高める」でした。長時間学習に最初は悪戦苦闘していた生徒たちも、時間を追うごとに集中し中身の濃い学習ができるようになっていきました。生徒たちの感想を読むと「勉強が楽しくなってきた」「長いと思っていた100分が短く感じるようになった」「つらい時はみんなの背中を見て頑張った」「質問教室で今までわからなかったことがわかり、理解を深めることができた」と内面的な変化と成長が見られました。これからの人生100年時代の社会において、一生学び続けることは当たり前のこととなります。自ら課題を見つけ、弱点を克服し、自発的な学習をすることの大切さと難しさをこの合宿で経験し、これからの学習に対する姿勢を変えるきっかけになりました。今後はさらに自らの学びに真摯に向き合い、この経験を日々の学習につなげてほしいと思います。恵まれた環境の中で学習する機会を与えていただいた保護者の皆様に感謝申し上げます。



高校3学年主任 松尾 健司

7月30日から8月5日まで、長崎市の矢太楼南館で学習合宿を実施しました。高台のホテルから見える美しい長崎の夜景には目もくれず、一日中机に向かう高揚感を味わいながらの合宿です。72回生らしく、初日から何（72）事もない無難なスタート。高ぶる学習意欲をそっと胸に秘め、学習のギアはゆっくりと静かに上がっていきました。

今回の合宿のテーマは「覚悟」。受験生として志望校合格を本気で目指す覚悟、好きなものや好きなことを断って学習に打ち込む覚悟など、それぞれの覚悟を胸に臨みました。本気で取り組めば、次から次へと疑問が湧き、質問に行くことで理解することの喜びを得られた生徒も多くいたようです。また、徹底して苦手教科に取り組む覚悟を決め、合宿中に苦手意識が消えてしまった生徒もいました。明確な目標と、強い危機意識を持って臨んだことで、多くのことが得られた意義ある合宿となりました。

前半は質問も少なく、拙い内容のものもありましたが、日が経つにつれて向上し、問題の本質に迫る良い質問も増えました。わずか1週間でも、大きな成長がうかがえました。この姿勢や雰囲気や佐世保を持ちかえり、継続してこそ合宿の価値が出てくるものとなります。それぞれの進路実現に向かって、合宿以上の気持ちで残りの高校生活の学習に取り組んでほしいと思います。ここからはギア全開で。